

赫夜 —かぐや—

ずいりんじじぞうぼさつざぞう
瑞林寺地蔵菩薩坐像と

富士市の

お地蔵さま

令和元年 9月28日(土)～12月15日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合その翌日)、10/23

開館時間：9時～17時(11月以降は9時～16時半)

①木造地蔵菩薩坐像(瑞林寺蔵)、②同像レプリカ(当館蔵)、③同像 胎内銘主要部分



皆さまは、富士市内にとっても貴重な^{ぶつぞう}仏像があることをご存知ですか。仏像界の中ではちょっと名の知れた^{ぼん}仏さまなのですが…。ヒントはお地蔵^{じぞう}さまです。ここで分かった方は仏像通ですね。正解は、富士市^{まつおか}松岡の瑞林寺にある木造地蔵菩薩坐像です。このお地蔵さまは、価値の高い文化財であると認められ、昭和57年(1982)に^{くにしていじりょうぶんかざい}「国指定重要文化財」になりました。

では、瑞林寺のお地蔵さまはどうして貴重なのか。また、どのようなお姿なのか。実際お会いしたことがある方は少ないと思いますので、ほんの少し紹介します。

大きさは約85cmで、大人が座った大きさとはほぼ同じくらいです。お地蔵さまなので^{ぼうずあたま}坊主頭です。背筋をピンと伸ばし、胸を張り、力強さを感じさせます。目は本物の目のようにキラッと光が反射します。着物のシワやたるみも本物そっくりで、とてもかっこいいお地蔵さまです。少し難しい表現をすれば、^{しやじつてき}写実的(現実をありのまま表現すること)な仏さまなのです。

次にどうして貴重なのかといいますと、このお地蔵さまは造られた年や作者が体のなかに^{すみ}墨で書かれているのです。造られたのは平安時代末期の治承元年(1177)で、作者は^{へいあん}「康慶」という^{ぶつし}仏師(仏像を造る人)です。康慶と聞いて、あの有名な「運慶」^{うんけい}「快慶」^{かいけい}を思い浮かべた方もいるのではないでしょう

か。運慶、快慶といえば、鎌倉時代^{かまくら}を代表する仏師たちで、奈良東大寺南大門の木造金剛力士像などを造り、当時^{とうだい}華々しく活躍しました。名前に「慶」が入っている人が多かったので、「慶派」と呼ばれています。康慶は運慶の実の父であり、師匠でもある人物なのです。

そんな康慶が造ったお地蔵さまですが、康慶作の仏像の現存数が少ない上に、その写実的な表現は、運慶、快慶を始めとする慶派の仏師たちに非常に大きな影響を与えていると考えられています。つまり、大げさではなく運慶、快慶の活躍は康慶抜きには考えられないのです。

このお地蔵さまの貴重さ、少し感じて頂けたでしょうか。こんなすごい仏さまが私たちが住む富士市には残されているのです。

今回の展示では、瑞林寺のお地蔵さまについて詳しく解説するとともに、最新の調査結果を報告します。また、発見当初、作者は運慶であると思われていたことや、その後、作者は運慶ではなく康慶であるとされた経緯なども紹介します。さらに瑞林寺のお地蔵さま以外で、富士市に残る立派な木造のお地蔵さまや、地域に根付き今でもお祭りをを行い、大切に信仰されているお地蔵さまたちを紹介します。

(佐野あき沙)

富士市立博物館ボランティア活動報告

岩本村山崎家文書整理

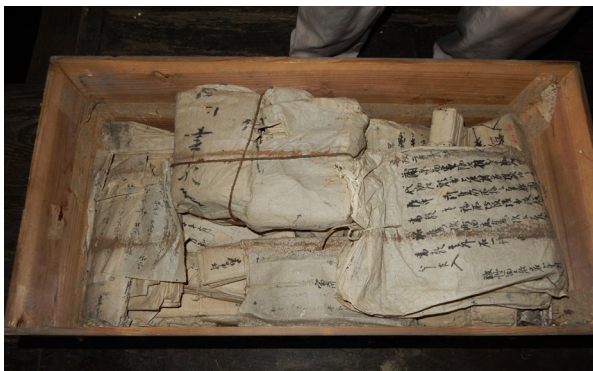
・富士市立博物館ボランティアについて

当館のボランティアは平成19年度(2007)から活動を開始し、現在1～6期生32名が所属しています。メンバーそれぞれの興味・関心に応じて、体験イベントや学校での出前授業の補助などに取り組んでいます。ここではそのような活動のなかのひとつ、古文書資料の整理のようすをご紹介します。

・山崎家文書について

当館には毎年のように新規に寄贈される古文書がありますが、これらを整理・保存しなくては展示や研究に活用することができません。そこでボランティアの力を得て、資料整理を実施しています。現在取り組んでいる資料群は「岩本村山崎家文書」です。山崎家は江戸時代に岩本村(富士市岩本)の名主を勤めた家で、岩本村での富士川渡船・舟運の中心的役割をはたし、明治時代以降は岩本地区での製茶・養蚕業を主導した地域の有力者です。山崎家に伝わる古文書は昭和時代後期に整理され、『富士市史史料目録第2輯』(富士市史編纂委員会、平成2年(1990))に目録が掲載されています。

平成29年に現在の御当主より、この山崎家文書を博物館へ寄贈していただくことになりました。その際、御自宅の土蔵を拝見させていただくと、2階にあった複数の長持(衣類などを運搬・保存する蓋付きの長方形の大きな箱)から大量の古文書が発見されました。そのなかには「富士川新田新開…」や「蒲原宿定助郷村々々…」といった文言が見られ、富士市西部の江戸



長持ちの中には古文書がぎっしり

時代を語る上で重要な古文書であることが予想されました。大小の長持6個に約1万数千点はあり、膨大であったため、平成30年に博物館実習の学生の手を借りて運び出し、博物館での整理を開始しました。



製茶・養蚕の出荷品に押した印鑑も発見された

・古文書整理の手順

まずは博物館実習生に、各箱の古文書を上から1点ずつ、箱が空になるまでデジタルカメラで撮影し、記録しました。この目的は、各箱にどのように古文書が納められていたのかを記録するためです。古文書の入っている順番やまとめられている状態の情報も「資料」になるわけです。

箱から出した古文書は、文化財用の蒸散剤とともに大きいビニル袋に入れて密閉し、簡易的な処置をします。これである程度の文化財害虫は駆除できます。

そして、ボランティアメンバーと資料整理に取り掛かります。最初に取り掛かる作業は、くずし字が読めなくてもできる、総点数を把握するための古文書のナンバリングです。古文書を1点1点中性紙封筒に入れて、箱に入っていた順番に上から番号を付けます。なかには、ひとつの封筒にたくさんの古文書が入っているものや、紙縫りでまとめられているものもあります。そのような状態も貴重な情報なので記録します。

現在、月に2回のペースで「山崎家文書整理日」を設定し、毎回3～6人のボランティアメンバーと作業を実施しています。今年度中の総点数の把握が目標で、その後メンバーでくずし字を少しずつ読みながら古文書を解読し、分類・目録化・公開にこぎ着けたいと考えています。

(杉本寛郎)



博物館ボランティアによる古文書整理のようす

静岡県富士山世界遺産センター・富士山かぐや姫ミュージアム共同企画展

「富士山の女神 かぐや姫」展のようすをお伝えします！

令和元年6月15日（土）～8月18日（日）

富士宮市にある静岡県富士山世界遺産センター（以下、世界遺産センター）を会場に、初の共同企画展を6月15日（土）から開催しました。当館のメインテーマである富士山に帰るかぐや姫の伝説について、当館が収蔵している資料を中心に展示しています。

世界遺産センターには県外から訪れる方が非常に多く、一般的な竹取物語とは異なる、富士山南麓に伝えられたかぐや姫の伝説を初めて知っていただき、大変興味深く展示をご覧いただきました。

展示は、富士山に帰るかぐや姫の伝説を記した「富士山縁起」と呼ばれる資料を中心に、富士山南麓で伝えられたかぐや姫にまつわる資料や史跡などを紹介し、さらにその富士山縁起を複数伝え、特に富士市域でこの伝説を根付かせるのに大きく関わった寺院・富士山東泉院についてスポットを当てた構成です。

期間中には、より深く展示内容を理解していただくため、6月16日（日）に世界遺産センター研修室にて関連講座を開催しました。会場には定員35人を大きく超える約60人の聴講者が訪れ、関心の高さをうかがい知ることができました。展示室でのギャラリートーク（展示解説）も8月11日（日）と8月18日（日）（各日とも午前11時と午後2時からの約30分間）にも開催予定ですので、是非ご参加ください。



展示室でのギャラリートークのようす

この展示の会期はまさに夏休みシーズンですので、自由研究の題材にぴったりです。伝説ゆかりの史跡などを巡ってみてはいかがでしょうか。もちろん当館ではいつでも富士山南麓のかぐや姫伝説について学ぶことができます。世界遺産センターの展示と合わせて、当館へもお越しいただければ幸いです。（秋山裕貴）

見学しよう！富士川民俗資料館「稲葉家住宅」



稲葉家住宅外観

現在、旧東海道沿いにある県指定史跡「岩淵の一里塚」から、南に20mほど小道を進むと、茅葺き屋根の古民家「稲葉家住宅」があります。稲葉家住宅は富士市指定有形文化財で、もとは南松野の桑木野という集落で18世紀前半に建てられた、市内で最も古い民家建築と考えられています。昭和47年（1972）に文化財として現在の地に移築復元され、旧富士川町の時代から町のシンボルとして親しまれました。平成30年度に大規模な修繕をおこない、現在では、屋内に入つて建物内部も見学できるようになりました。



屋内の展示のようす

稲葉家住宅では、富士川民俗資料館として富士川地区・松野地区の昔の暮らしのようすや生活の道具を展示しています。特に稲葉家を含む松野地区では、江戸時代後期から紙漉きが盛んに行なわれており、漉き舟などの紙漉き道具も展示しています。また、富士川の漁で使われたモジリやビクなども展示しています。今年度は、11月2日（土）と3月15日（日）に紙漉き体験を開催しますので、是非お立ち寄りください。

◎稲葉家住宅（富士川歴史民俗資料館）

住所：富士市岩淵8-1
開館日：土曜日、日曜日、祝日（原則）
開館時間：4～10月 9:00～17:00 / 11～3月 9:00～16:30
入館料：無料（無料駐車場あり）

展示室② 富士山の玉手箱

古写真にみる明治の富士

令和元年6月1日(土)～9月1日(日)

新しい時代の幕開けとなった5月を皆さまはどのような思いで迎えられたでしょうか。「令和」という響きに希望を抱くとともに、過ぎ去った時代を想うきっかけにもなったのではないのでしょうか。

さて昨年、明治元年（1868）から150年を迎えました。明治時代の幕開けは近代化の幕開けであり、人々のくらしも大きく変わりはじめました。明治時代はまた、現在の富士市の基礎が築かれた時代でもありました。江戸時代末期に海外から日本にもたらされた写真技術も近代の幕開けとともに普及しはじめ、日本各地の風景や人物（風俗）が撮影されました。明治時代、これらの単色写真は着色され、来日した外国人向けの日本土産として横浜などで販売されていました。

富士山は現在も被写体として人々から愛されていますが、当時も日本の象徴的な背景として外国人向けに格好の題材であり、富士市域からとらえた富士山とそこに暮らす人々の姿が残されています。これら古写真は、当時の様子を現在に伝えてくれる貴重な資料でもあります。

この展示会では、富士市の製紙業発祥の地とされる今泉地区の湧水地帯や浮島沼と帆かけ舟、現在も同じ場所にある鈴川地蔵堂の境内、岩淵の名物栗粉餅の看板が下がった茶店など、いずれも富士山を背景に撮影された明治時代の写真を紹介しています。令和という新しい時代を迎えた今、古写真をとおして150年前のふるさとも思いを馳せていただけたら幸いです。

（瀧浪和美）



吉原からの富士〔原題〕「B.28.FUJI FROM YOSHIWARA」
今泉地区の湧水地帯、通称ガマ（蒲）と呼ばれた付近。



岩淵からの富士〔原題〕「FUJI FROM IWABUCHI.」
左の茶店に「くりのこもち」の看板がみえる。

ふじかぐちゃんが富士警察署直轄警ら隊小隊とコラボ!第2弾!!

昨年に引き続き、背中に大きくプリントされたふじかぐちゃんのTシャツを着て、富士警察署警ら隊の方々が市民の安全のために活動をされています。Tシャツも令和バージョンに生まれ変わりました。



富士山かぐや姫ミュージアム 赫夜-かぐや-

発行年月日 令和元(2019)年 7月31日

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

印刷 文光堂印刷株式会社

住所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2 TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398

HP. <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館に同じ

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし すべて観覧無料

博物館だより
No.74



タイトルの「赫夜-かぐや-」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。